

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 31日は、前線を伴った低気圧が西日本付近へ進む。
- 4月1日は、低気圧が北日本付近を通過して三陸沖へ進む。
- 2日は、低気圧が千島近海へ進み、高気圧が東シナ海へ移動する。
- 3日は、高気圧が日本の東へ移動する。前線が華中から東シナ海へのびる。
- 4日は、高気圧が日本のはるか東へ移動する。前線が東シナ海から日本の南へのびる。

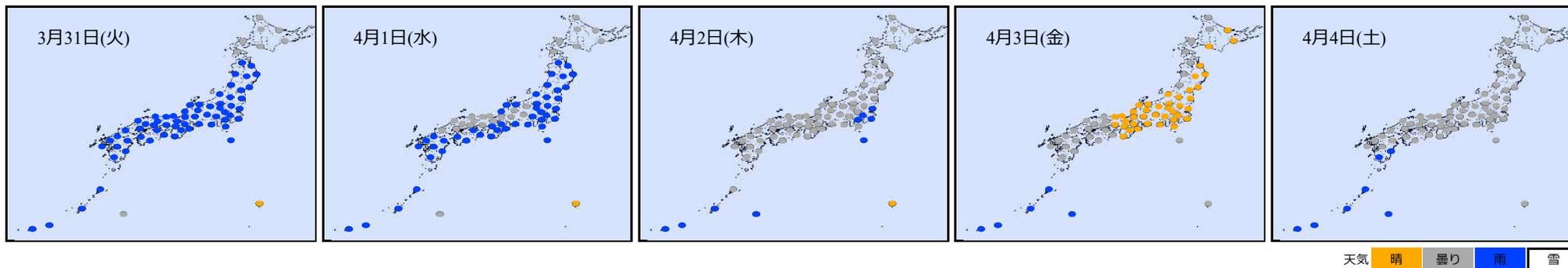
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 30日から31日にかけては、東日本と西日本では発達する低気圧の影響で大雨や荒れた天気となり、低気圧の発達程度等によっては警報級の大雨となる可能性がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

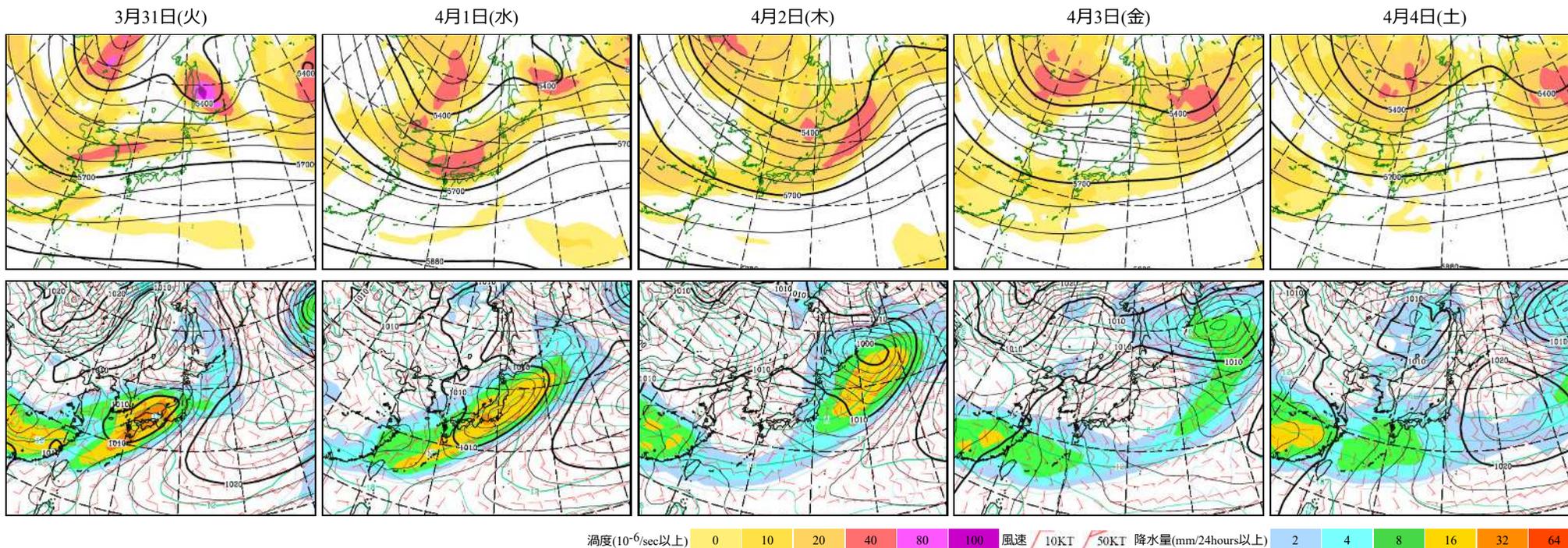
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

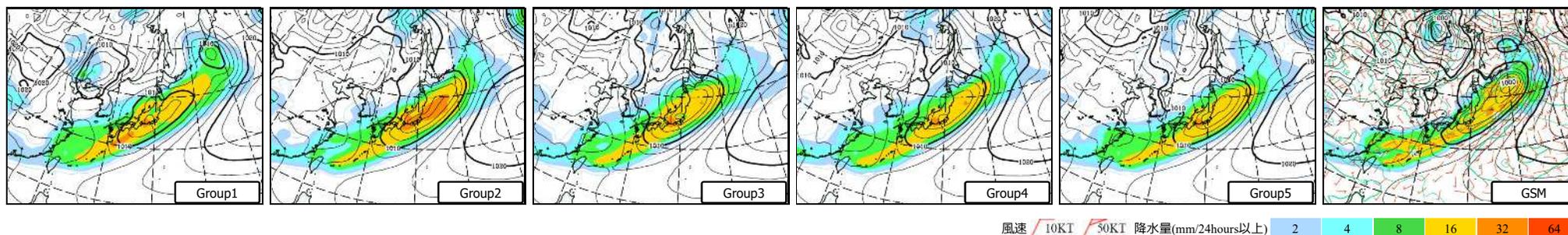


- 北日本は、雲が広がりやすく、31日から4月1日は雨の降る所がある。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多いが、3日は晴れる所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆4月1日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、4月1日は本州付近の低気圧が明瞭となり、全国的に降水確率ガイダンスが大きくなった。また、3日から4日は日本付近から日本の東へ移動する高気圧の勢力が強まった。
- 31日から1日の低気圧のコースは、東シナ海から対馬海峡を経て日本海沿岸から北日本付近へ進む予想で各モデルとも揃いつつあるが、本州南岸に予想するモデルも見られる。また、4日については各モデルの予想が大きく異なり、初期値変わりも大きいことから、比較的予想が安定しているENSを基本に、前線が東シナ海から日本の南へのびると考える。
- スプレッドは、期間の終わりは大きくなり、各特定高度線にばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。